

小田原市子ども・子育て支援および若者のための取組に関するアンケート調査結果報告書【抜粋】

1 未就学児調査

(1) 子どもの育ちをめぐる環境について

【問6】子育てを主に行っているは、「父母ともに」の割合が59.3%（前回調査時47.9%）と最も高く、次いで「主に母親」が39.8%（前回調査時50.4%）と、父親の子育てへの参加機会が前回調査時から増加していることがうかがえます。

【問7】子どもをみてもらえる状況は、「緊急時や用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が61.7%（前回調査時58.8%）と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が24.3%（前回調査時25.6%）、「緊急時や用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が11.1%（前回調査時9.4%）と、「緊急時」には周辺にみてもらえる方は半数以上となっていますが、「いずれもない」という方も20.0%（前回調査時14.1%）と一定数いて、前回調査時と比較しても5.9ポイント高くなっています。

【問8】子育ての相談状況では、気軽に相談できる人や場所について、「いる／ある」が92.7%（前回調査時90.6%）、「いない／ない」が7.3%（前回調査時5.4%）となっており、その相談先【問8-1】では、「祖父母等の親族」が79.3%（前回調査時83.1%）と最も高く、次いで「友人や知人」が68.0%（前回調査時76.1%）、「保育士」が30.0%（前回調査時28.1%）、「かかりつけの医師」が21.3%（前回調査時17.8%）、「子育て支援センター・地域子育てひろば」が16.9%（前回調査時17.3%）となっています。なお、前回調査時と同様の傾向となっています。

(2) お子さんの保護者の就労状況について

【問9】保護者の現在の就労状況は、母親では、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が31.0%（前回調査時27.2%）と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が26.2%（前回調査時37.7%）、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が21.8%（前回調査時17.8%）となっており、前回調査時と比較して働いている母親の割合が高くなっています。父親では、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が92.5%（前回調査時92.7%）と9割以上がフルタイム就労となっています。

(3) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

①平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

【問12】幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育事業」の利用状況は、「利用している」が72.4%（前回調査時68.6%）、「利用していない」が27.6%（前回調査時31.2%）となっており、利用している方は前回調査時より3.8ポイント高くなっています。

【問 12-1】その利用先は、「私立保育園」が 31.6%（前回調査時 36.0%）と最も高く、次いで「市立保育園」が 20.4%（前回調査時 19.7%）、「私立幼稚園」が 16.9%（前回調査時 22.7%）となっています。前回調査時と比較して「私立保育園」と「私立幼稚園」が減少している一方で、増加しているのは、「認定こども園」「小規模保育事業」でそれぞれ 9.0%（前回調査時 4.9%）、6.3%（前回調査時 2.3%）となっています。「私立幼稚園」（16.9%）と「私立保育園」（31.6%）を合わせた割合（48.5%）は、「市立幼稚園」（4.6%）と「市立保育園」（20.4%）を合わせた割合（25.0%）よりも 23.5 ポイント上回っています。

年齢別では、他の年齢に比べ、0歳、2歳、3歳で「私立保育園」が、1歳で「市立保育園」が、3歳以上で「私立幼稚園」が高くなっています。また、0歳児では、「小規模保育事業」（23.7%）、「事業所内保育施設または企業主導型保育事業」（16.9%）も他の年齢に比べ高くなっています。

【問 12-3】現在、利用している教育・保育事業の実施場所は、「小田原市内」が 94.0%（前回調査時 95.0%）と最も高く、前回調査時と同様の傾向となっています。市外の利用件数をみると、南足柄市では「認定こども園」が、二宮町では「私立幼稚園」が高くなっています。

【問 12-4】平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由は、「子育てをしている方が現在就労している」が 63.7%（前回調査時 62.3%）と最も高く、次いで「子どもの教育・発達に良い影響をあたえたいので」が 60.9%（前回調査時 68.0%）となっており、前回調査時と比較しても共働き世帯の増加にあわせて保育としての利用が増えています。子どもの教育や発達に対する役割を期待している方も約6割となっています。

一方、【問 12-5】平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため（〇〇歳くらいになったら利用しようと考えている）」が 37.3%（前回調査時 48.5%）と最も高く、次いで「（子どもの教育や発達のため、父母が就労していないなどの理由で）利用する必要がない」が 35.0%（前回調査時 40.6%）となっていますが、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」と回答している割合も 21.5%（前回調査時 23.1%）と2割以上となっています。なお、前回調査時と比較すると、それぞれ減少しています。

②平日の定期的な教育・保育事業の利用希望

【問 13】現在、利用している、利用していないにかかわらず、子どもの平日の教育・保育事業として、定期的に利用したいと考える事業は、「市立保育園」が 44.4%（前回調査時 37.1%）と最も高く、次いで「私立保育園」が 41.0%（前回調査時 36.6%）、「認定こども園」が 28.1%（前回調査時 15.0%）となっています。前回調査時と比較すると、「認定こども園」のニーズが大きく増えています。「私立幼稚園」（23.2%）と「私立保育園」（41.0%）を合わせた割合（64.2%）と、「市立幼稚園」（20.3%）と「市立保育園」（44.4%）を合わせた割合（64.7%）は同程度となっています。

定期的な教育・保育事業の利用の有無別にみると、現在事業を利用していない人で、「市立幼稚園」および「私立幼稚園」、「認定こども園」と回答している割合が高くなっていることから、これから就園していく家庭において「幼稚園」、「認定こども園」のニーズが高くなっていることがわかります。また、年齢別にみると、「市立保育園」および「私立保育園」は年齢と問わず割合が高くなっています。

一方、母親の就労形態別にみると、フルタイム、パート・アルバイト等では「市立保育園」および「私立保育園」が高く、次いで、フルタイムでは「認定こども園」、パート・アルバイト等では「私立幼稚園＋預かり保育」が高くなっています。適正な教育・保育ニーズを見込むためには、就労状況に応じたニーズの把握が重要となります。

未就労の母親の就労希望別にみると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」との希望を持つ人で「市立保育園」「私立保育園」を希望している人がそれぞれ33.3%、27.0%、「私立幼稚園」「市立幼稚園」「認定こども園」を希望している人がそれぞれ30.6%、22.5%、36.0%となっていることから、保育園だけでなく、1年以内の幼稚園、認定こども園の利用につながる潜在的なニーズがあることがわかります。

（４）子どもの地域の子育て支援事業の利用状況について

【問 14】「子育て支援センター」や「地域子育てひろば」の利用状況は、「子育て支援センター」を利用している割合が31.6%（前回調査時35.4%）、「地域子育てひろば」を利用している割合が5.8%（前回調査時12.6%）、「利用していない」が67.6%（前回調査時61.4%）となっており、前回調査時と比較して「利用していない」という割合が高くなっています。年齢別にみると、0歳～2歳では「子育て支援センター」の利用割合が高いですが、年齢が高くなるにつれて利用割合が下がり、「利用していない」は年齢が高くなるにつれて高くなっています。

【問 15】子育て支援センターや地域子育てひろばの今後の利用希望は、「利用していないが、今後利用したい」が19.7%（前回調査時20.3%）と、潜在的なニーズがあることがわかります。なお、前回調査時とは同様の傾向になっています。

（５）子どもの病気の際の対応について

【問 19】この1年間に、子どもが病気やけがで通常の事業が利用できなかったことはあるかは、「あった」が89.3%（前回調査時82.6%）、「なかった」が9.9%（前回調査時15.2%）となっており、前回調査時と比較して「あった」という割合が高くなっています。

【問 19-1】子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法は、「母親が休んだ」が70.9%（前回調査時66.2%）と最も高く、次いで「父親が休んだ」が36.0%（前回調査時27.3%）、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が25.4%（前回調査時30.3%）となっています。前回調査と比較すると、「母親が休んだ」「父親が休んだ」がそれぞれ4.7ポイント、8.7ポイント高くなっています。

【問 19-2】「母親が休んだ」または「父親が休んだ」のどちらかを選択した方で、その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われたかは、「できれば病後児保育施設等を利用したい」「できれば病児保育施設等を利用したい」がそれぞれ24.4%（前回調査時21.6%）、20.1%（前回調査時18.5%）、「利用したいとは思わない」が54.6%（前回調査時58.1%）となっており、前回調査時と比較して利用したいという割合が高くなっています。母親の就労状況別にみると、フルタイム就労者について「できれば病後児保育施設等を利用したい」「できれば病児保育施設等を利用したい」がそれぞれ28.0%（前回調査時24.4%）、22.9%（前回調査時19.6%）となっており、「病後児・病児保育施設等」の利用ニーズは、フルタイム就労者の利用ニーズと概ね一致

しています。

（６）子どもの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

【問 20】私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業はあるかは、「利用していない」が 88.9%（前回調査時 88.1%）と最も高くなっており、前回調査時と同様の傾向となっています。また、【問 21】利用希望は、「利用したい」が 51.2%（前回調査時 44.6%）、「利用する必要はない」が 48.8%（前回調査時 52.7%）となっており、利用したいという方は前回調査時より 6.6 ポイント高くなっています。利用する目的については、「私用（買物、きょうだいや親の習い事等）、リフレッシュ目的」が 70.9%（前回調査時 67.7%）と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が 49.0%（前回調査時 60.8%）、「不定期の就労」が 21.9%（前回調査時 31.1%）となっており、前回調査時と比較して「私用」は高くなっています。

【問 23】保護者の用事（冠婚葬祭、保護者や家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）による短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望の有無は、「利用する必要はない」が 86.8%と高くなっていますが、「利用したい」という割合も 13.2%と一定数いることがわかります。なお、利用したい目的としては、「保護者や家族の病気」が 60.4%と最も高く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」が 54.0%、「冠婚葬祭」が 38.5%となっています。

（７）放課後の過ごし方について

①小学校低学年（１～３年生）になったときの放課後の過ごし方

【問 24】小学校低学年（１～３年生）になったときの放課後の過ごし方について、どのような場所で過ごさせたいと思うかは、「自宅」が 54.6%（前回調査時 53.3%）と最も高く、次いで「放課後児童クラブ」が 51.1%（前回調査時 44.9%）、「習い事」が 33.5%（前回調査時 47.1%）となっており、前回調査時と比較して「放課後児童クラブ」が 6.2 ポイント高くなっており、「習い事」が 13.6 ポイント低くなっています。

②小学校高学年（４～６年生）になったときの放課後の過ごし方

【問 25】小学校高学年（４～６年生）になったときの放課後の過ごし方について、どのような場所で過ごさせたいと思うかは、「自宅」が 68.7%（前回調査時 60.4%）と最も高く、次いで「習い事」が 51.5%（前回調査時 70.0%）、「放課後児童クラブ」が 26.0%（前回調査時 30.0%）となっており、学年が上がると、「習い事」の利用を希望する割合が高くなり、「放課後児童クラブ」の利用を希望する割合が低くなっています。また、前回調査時と比較すると「習い事」が 18.5 ポイント減少しています。

(8) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

【問 28】子どもが原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組みや、子どもが満3歳になるまでの育児休業等期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがあることを知っているかは、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が55.6%（前回調査時40.6%）と最も高くなっており、前回調査時と比較して15.0ポイント高くなっています。なお、認知度が半数を超えている一方、「育児休業給付のみ知っていた」が23.6%（前回調査時29.8%）、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が19.5%（前回調査時26.1%）と、制度の一層の周知も必要であると考えます。

また、【問 29】子どもが生まれた時、育児休業を取得したかは、母親で「取得した（取得中である）」が55.0%（前回調査時42.1%）となっており、前回調査時と比較して12.9ポイント高くなっています。なお、取得した方が半数以上となっていますが、「取得していない」という割合も11.6%（前回調査時12.5%）となっています。取得していない理由については、「子育てや家事に専念するため退職した」が18.2%（前回調査時11.3%）と他の理由に比べ高くなっており、前回調査時と比較して6.9ポイント高くなっています。

一方、父親は、「取得していない」が74.8%（前回調査時89.3%）と最も高くなっていますが、前回調査時と比較すると14.5ポイント低くなっています。また、取得していない理由については、「仕事が忙しかった」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「収入減となり経済的に苦しくなる」等様々な理由で取得できていないことがわかります。父親の育児休業取得率が過去と比較すると高くはなっているものの、仕事と子育ての両立に向けた支援について、企業も含めたさらなる環境づくりが必要であると考えます。

(9) 子育て全般について

【問 31】妊娠中や出産後に必要だと思うサービスは、「経済的な支援」が55.0%（前回調査時43.7%）と最も高く、次いで「赤ちゃんやきょうだいの一時的な預かり」が39.4%（前回調査時39.5%）、「母親の体調や不安感の相談」が38.2%（前回調査時36.0%）となっており、「経済的な支援」を求めている方は前回調査時より11.3ポイント高くなっています。また、【問 32】子育てをしていく上で必要だと思うサービスは、「経済的な支援」が48.2%（前回調査時42.0%）と最も高く、次いで「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が44.6%（前回調査時50.3%）、「親のリフレッシュの場や機会の提供」が33.1%（前回調査時29.9%）となっています。前回調査時と比較して「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が5.7ポイント低くなっているのに対し、「経済的な支援」は6.2ポイント高くなっており、妊娠中や出産後、子育てをしていく上で経済的な支援が求められています。

【問 34】経済的な面での暮らしの状況は、「ふつう」が46.1%（前回調査時50.3%）と最も高いものの、「やや苦しい」、「大変苦しい」がそれぞれ28.1%（前回調査時27.3%）、11.7%（前回調査時8.1%）と、経済的に苦しいと感じている方も多いことがわかります。また、前回調査と比較しても苦しいと感じている割合は高くなっています。

【問 36】子どもを育てている現在の生活の満足度（1：満足度が低い、5：満足度が高い）は、「4」が33.4%（前回調査時 34.5%）と最も高く、次いで「3」が32.7%（前回調査時 31.5%）、「2」が17.6%（前回調査時 11.6%）となっており、前回調査時と比較して「2」6.0 ポイント高くなっています。【問 36-1】満足度が「1」「2」を選択した方の理由は、「子育てをする上で経済的に厳しい」が58.9%と最も高く、次いで「自分の自由な時間がない」が56.7%となっており、【問 36-2】満足度が「4」「5」を選択した方の理由は、「子どもの成長を感じることができる」が87.5%と最も高く、次いで「子どもと話したり、遊ぶ時間を持つことで生きがいを感じる」が72.9%となっています。

【問 37】小田原市における子育ての環境や支援への満足度は、「3」が42.2%（前回調査時 43.6%）と最も高く、次いで「2」が29.8%（前回調査時 22.9%）、「4」が16.1%（前回調査時 18.6%）となっており、前回調査時と比較して「2」が6.9 ポイント高くなっています。また、【問 36】子どもを育てている現在の生活の満足度と比べても満足度が低くなっています。【問 37-1】満足度が「1」「2」を選択した方の理由は、「公園や広場などの子どもの遊び場が少ない」が63.3%と最も高く、次いで「保育サービスが充実していない」が45.7%となっており、【問 37-2】満足度が「4」「5」を選択した方の理由は、「住環境が良い」が57.3%と最も高く、次いで「自然環境が良い」が52.3%、「公園や広場などの子どもの遊び場が多い」が36.6%となっています。

2 小学生調査

(1) お子さんの保護者の就労状況について

【問 8】保護者の現在の就労状況は、母親では、「就労している」が 76.9%（前回調査時 72.2%）と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 21.0%（前回調査時 20.4%）となっており、就労している母親は前回調査時より 4.7 ポイント高くなっています。父親では、「就労している」が 96.3%（前回調査時 95.2%）となっており、前回調査時と同様の傾向となっています。

(2) 地域の子育て支援の利用状況について

【問 10】平日の放課後の過ごし方は、時間帯ごとにみると、14～16 時では「小学校にいる（下校前である）」が 27.7%（前回調査時 57.9%）と最も高く、次いで「自宅等で保護者や兄弟姉妹、祖父母等の家族と一緒にいる」が 27.4%（前回調査時 12.6%）、「放課後児童クラブを利用している」が 20.4%（前回調査時 11.2%）となっています。16～18 時では、「自宅等で保護者や兄弟姉妹、祖父母等の家族と一緒にいる」が 42.1%（前回調査時 33.8%）と最も高く、次いで「習い事や学習塾に行っている」が 29.0%（前回調査時 28.6%）、「放課後児童クラブを利用している」が 14.0%（前回調査時 11.7%）となっています。18 時以降では「自宅等で保護者や兄弟姉妹、祖父母等の家族と一緒にいる」が 85.7%（前回調査時 85.5%）となっています。14 時から 18 時までの過ごし方を前回調査時と比較すると、それぞれの時間帯で「放課後児童クラブを利用している」に割合が高くなっており、平日の放課後の過ごし方で、「放課後児童クラブ」が一定の役割を果たしていることがわかります。また、【問 11-1】「放課後児童クラブ」の終了時間について、現状は「17 時台」が 40.4%（前回調査時 36.9%）と最も高く、次いで「18 時以降」が 26.7%（前回調査時 34.4%）、「16 時台」が 19.2%（前回調査時 17.5%）となっており、前回調査時と比較して終了時間が早くなっています。希望終了時間は、「17 時台」が 28.8%（前回調査時 21.3%）と最も高く、次いで「18 時台」が 26.0%（前回調査時 23.8%）、「16 時台」が 11.0%（前回調査時 6.3%）となっています。「19 時以降」を希望する割合は 9.6%（前回調査時 18.8%）となっていることから、現状よりも遅い時間まで利用希望があります。また、前回調査時と比較して「17 時台」「18 時台」を希望する方が増えています。

【問 13】小学生が放課後を過ごす環境について今後望むことは、「街区公園などの身近な遊び場の整備」が 54.6%（前回調査時 42.4%）と最も高く、次いで「保護者の就労の有無に関わらず、様々な体験をしながら時間を過ごせる場や機会の提供」が 46.1%（前回調査時 43.8%）、「子どもが自らの発想のもとに自由に遊べる遊び場の整備」が 34.2%（前回調査時 31.5%）となっており、子どもが過ごす場や機会の充実が望まれます。また、前回調査時と比較してもそれぞれ割合が高くなっており、特に「街区公園などの身近な遊び場の整備」が 12.2 ポイント高くなっています。

(3) 子育て全般について

【問 14】近所の人とのつきあい方は、「会えばあいさつぐらいはする」が 48.4%（前回調査時 37.9%）と最も高く、次いで「たまに立ち話ぐらいはする」が 30.4%（前回調査時 27.3%）、「困ったときに相談したり、助け合ったりする」が 17.0%（前回調査時 12.9%）となっています。「会えばあいさつぐらいはする」という方は前回調査時より 10.5 ポイント高くなっています。

【問 17】経済的な面での暮らしの状況は、「ふつう」が 52.8%（前回調査時 51.3%）と最も高いものの、「やや苦しい」、「大変苦しい」がそれぞれ 26.8%（前回調査時 28.1%）、5.5%（前回調査時 7.5%）と、経済的に苦しいと感じている方も3割程度いることがわかります。なお、苦しいと感じている方は前回調査時よりは低くなっています。

【問 20】子どもを育てている現在の生活の満足度（1：満足度が低い、5：満足度が高い）は、「3」が 35.1%（前回調査時 37.0%）と最も高く、次いで「4」が 30.1%（前回調査時 28.6%）、「2」が 20.8%（前回調査時 16.4%）となっており、前回調査時と比較して「2」が 4.4 ポイント高くなっています。【問 20-1】満足度が「1」「2」を選択した方の理由は、「自分の自由な時間がない」が 55.7%と最も高く、次いで「子育てに十分な時間が取れない」が 51.3%、「仕事と子育ての両立に悩んでいる」が 48.1%となっており、【問 20-2】満足度が「4」「5」を選択した方の理由は、「子どもの成長を感じることができる」が 87.8%と最も高く、次いで「子どもと話したり、遊ぶ時間を持つことで生きがいを感じる」が 60.4%、「家族としての一体感が感じられる」が 59.0%となっています。

【問 21】小田原市における子育ての環境や支援への満足度は、「3」が 46.1%（前回調査時 47.0%）と最も高く、次いで「2」が 29.0%（前回調査時 27.0%）、「4」が 13.5%（前回調査時 11.2%）となっており、前回調査時と比較して「2」が 2.0 ポイント、「4」が 2.3 ポイント高くなっています。また、子どもを育てている現在の生活の満足度と比べても満足度が低くなっています。【問 21-1】満足度が「1」「2」を選択した方の理由は、「公園や広場などの子どもの遊び場が少ない」が 70.7%と最も高く、次いで「保育サービスが充実していない」が 24.1%、「子育てに関する情報を得にくい」が 19.3%となっており、【問 21-2】満足度が「4」「5」を選択した方の理由は、「住環境が良い」が 64.6%と最も高く、次いで「自然環境が良い」が 48.7%となっています。

3 若者調査

(1) 調査対象者本人の状況について

【問3】調査対象者の年齢は、「16歳～19歳」が28.2%、「20歳～24歳」が30.0%、「25歳～29歳」が41.9%となっています。

【問6】現在の職業は、「正規の社員・職員・従業員」が41.0%と最も高く、次いで「高校」が20.7%、「大学」が16.2%となっています。

【問10】経済的な状況は、「どちらでもない」が30.0%と最も高くなっています。「ゆとりがある」(13.7%)と「ややゆとりがある」(26.6%)を合わせた割合(40.3%)は、「やや苦しい」(19.4%)と「苦しい」(10.4%)を合わせた割合(29.8%)よりも10.5ポイント上回っています。

(2) ふだんの生活について

【問11】近所の人や地域の自治会との交流状況は、「全くない」が52.0%と半数以上となっています。「ある」(8.1%)と「時々ある」(39.9%)を合わせた交流がある人は48.0%となっており、

【問11-1】その交流の内容は、「会えばあいさつぐらいはする」が84.0%となっています。「困ったときに相談したり、助け合ったりする」は7.5%と1割以下となっており、互助の関係を地域で充実する上で、子どもや若者が安心して地域と関り合える環境づくりが重要と考えます。

【問14】外出の頻度は、「仕事や学校がある日は外出する」が65.1%と最も高く、次いで「遊びなどで頻繁に外出する」が17.3%、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」が7.4%となっており、普段から外出しているという割合が高いものの必要以上には外出しないという方も一定数いることがわかります。また、「家からほとんど出ない」は1.8%となっています。

【問17】今の生活の満足度（1：満足度が低い、5：満足度が高い）は、「4」が36.5%と最も高く、次いで「3」が31.3%、「5」が16.2%となっており、現状の生活に満足されている人が多いことがわかります。

(3) 悩みや相談相手について

【問19】悩みや心配ごとの有無は、「ある」が70.7%と約7割となっており、【問19-1】その悩みや心配ごとの内容は、「就職や仕事のこと」が63.7%と最も高く、次いで「将来の生活のこと」が62.1%、「お金のこと」が58.6%となっています。

【問20】悩みや心配ごとの相談先は、「親」が71.6%と最も高く、次いで「友人」が59.2%、「パートナー」が30.4%となっています。

(4) あなたの将来に対する考えについて

【問 21】結婚についての状況や考え方は、「年齢的なタイミングにはこだわらないが、いずれは結婚したい」が25.2%と最も高く、次いで「なるべく早く、若いうちに結婚したい」が23.6%と、結婚したいという割合が高くなっていますが、「結婚はしたくない・あまり気が進まない」、「まだわからない」という割合もそれぞれ15.1%、21.2%となっています。

【問 22】子どもを授かることについての状況や考え方は、「子どもは授かりたいが、1人か2人がいい」、「まだわからない」がそれぞれ24.5%と最も高く、次いで「なるべく早く、若いうちに子どもを授かりたい」が23.4%、「年齢的なタイミングにはこだわらないが、いずれは子どもを授かりたい」が23.2%となっています。なお、「子どもは授かりたくない・あまり気が進まない」は19.6%となっています。

【問 22-1】「子どもは授かりたくない・あまり気が進まない」を選択した方の理由は、「子育てや教育にお金がかかるから」が79.3%と最も高く、次いで「育児の心理的・肉体的負担が増えるから」が71.3%と、経済的負担や心理的・肉体的負担が多く挙げられています。

【問 23】将来の夢や目標の有無は、「ぼんやりとしているが、大体の夢や目標をもっている」が38.3%と最も高く、次いで「いろいろと考えているがまだ決めていない」が27.7%、「はっきりとした夢や目標をもっている」が15.1%となっています。なお、「夢や目標が持てない」(11.3%)や「特に考えたことはない」(7.7%)と回答した方も一定数いることがわかります。

(5) 子どもや若者に対する市の取組について

【問 24】自分らしさを表現する機会として、市に取り組んでほしいことは、「同世代の人と文化、スポーツ等体験活動を通じた交流や意見交換」が48.0%と最も高く、次いで「様々な世代、分野の人と文化、スポーツ等体験活動を通じた交流や意見交換」が37.4%、「海外の人との交流」が26.6%となっています。

【問 25】子どもや若者に対してどのような支援があるとよいかは、「生活や教育への経済的な支援」が52.7%と最も高く、次いで「子どもや若者が気軽に集える居場所づくり」が41.2%、「仲間と出会え、交流できる機会や場の提供」が35.6%と、半数以上が経済的な支援を求めているのに加え、居場所や交流の場を求める声も挙がっています。